

## 第 20 回「万葉集を楽しむ会@花奈雅和」報告書

6月21日にリアル9名と他教室参加者など6名を合わせて15名の参加で開かれました。今回のテーマはカシワ(栂)です。栂の木ではなく栂餅の葉を思い浮かべた参加者が多かったようです。



カシワ



茶色く色づいた葉

カシワは日本では栂と書きますが、中国では「栂」はヒノキを指します。中国の漢字を日本語に当てはめる際の誤用で、誤用と分かる例を多く教えていただきました。誤用は実物を見ておらず、似ている点が多かったからです。日本語のカシワは食物を包む、料理に使うという意味で「炊葉(かしくは)」から来ています。カシワは冬になっても葉が落ちず、新葉が出てから落ちるので「子孫繁栄」や「跡継ぎが絶えない」ということで大事にされてきました。そこで、男の子の節句に「栂餅」を食べる風習ができましたが、これは江戸時代からとのことでした。

万葉集ではカシワは6首詠まれています。今回は安宿王(あすかべおう)の君主(孝謙天皇、聖武天皇、光明皇后)を慕う1首と、愛しい人を置いてきた下総の国の防人の1首を教えていただきました。安宿王の父である長屋王が勢力拡大をはかる藤原氏によって謀反の罪に陥られ自害した(長屋王の変)の事や長屋王の側近であった大伴旅人は前もって大宰府に下向させられていたこと、藤原の血をひく安宿王はその際、お咎めなしだったこと。その後、あまりいい人生ではなかったけれど、彼は鑑真が渡日したときの特使になりました。父の長屋王は鑑真が渡日を決心するきっかけになったと伺って驚きました。長屋王の関係系図を見ながら長屋王、鑑真、安宿王とつながっていく歴史に魅了されました。また、防人の大田部足人(おおたべのたるひと)の歌の背景にある過酷な防人制度についても教えていただき切ない気持ちになりました。ただ、旅人の息子である家持の編纂によって防人たちの歌が現代に残されたことはすばらしいことですね、と先生のお言葉でした。2首の歌に加えて萩の花散る庭での乙女たちの美しい様子を歌った安宿王の1首も一緒に唱和して調べを楽しみました。



先生の着物は秋になって色が変わった栂(干栂)の葉を思わせる茶色です。帯は海を渡る防人を思っている波模様、そして帯留めは青栂と干栂の葉の緑と茶の2色使いの粋な取り合わせでした。

次回(第21回)「万葉集を楽しむ会@花奈雅和」のお知らせ

令和5年8月16日(水) 10:00 ~ 12:00 プラザ杉田 505号室

参加費 1,500円 ◎参加申し込みは長谷川嘉子にお願いいたします [mondlicht.y.20@gmail.com](mailto:mondlicht.y.20@gmail.com)

令和5年6月28日 文責: 三浦美智子・高木紀世子

5日前からのキャンセルは参加費をいただくのでよろしくお願いいたします(資料は後日お渡しいたします)

◎8月16日(水)に都合が悪い方は講師に直接ご連絡ください [paksara3t@gmail.com](mailto:paksara3t@gmail.com) (cc 長谷川)